

校長室の窓から

部活動から得たこと

先月、「三年後をめどに、休日の部活動を民間・地域に移行する。」という文部科学省の方針が出ました(下図参照)。そんなこともあって、今回の「校長室の窓から」は、部活動について書いてみました。

私の世代の教員は、部活動の指導がしくて教員になったという人も少なくありません。私もその一人。教師になって、バレーボールの指導がしたかったのです。



私が晴れて女子バレーボール部の顧問になったのは、採用から2年目。しかし、

低い指導技術と未熟な戦術のせいで、あまり勝つことはできませんでした。

そんな監督の下でしたが、当時の部員たちはバレーの専門高校に進んで華々しいバレー人生を歩んだり、高校の先生になったり、ダンスのインストラクター、主婦、看護師、そして市会議員になったりと、50歳を前にそれぞれの人生をちゃんと歩んでいます。

時折彼女たちから、「今、ハーレーに乗ってます。」とか、「地域のクラブでバレーをしています。」など、近況報告が届いたりします。

また、高校教諭から県教委に出た教え子がいて、彼女が初めて研修講座の講師をした時に見に行かなかったら、「なんで見に来ないんですか。私の初舞台なのに!」と責められたり。

そんな彼女らの同窓会で、

「俺は本当にバレーを教えるのが下手だった。申し訳ない。」
と言うと、

「そうですよね。」と、ロクに・・・全く遠慮がない。

ひとしきり私の指導下手をけなした後、

「でも、楽しかったです。久村先生でよかった。」

・・・忖度もできるお年頃になったようで・・・

とはいえ正直、とてもうれしかったので、

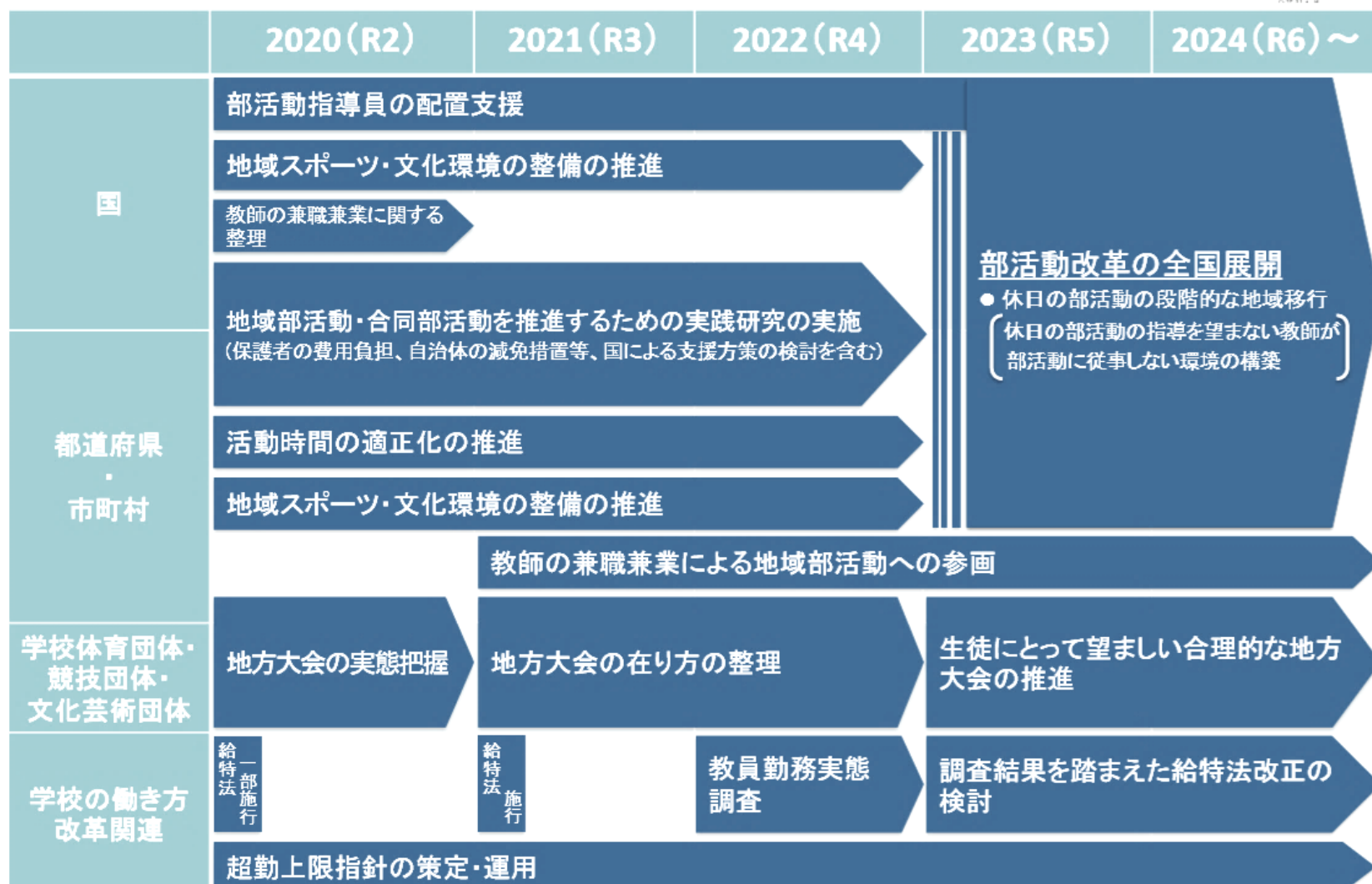
「泣くからやめろ。」と言うと、

ロクに「先生でよかった。」「先生でよかった。」・・・と、今度はからかわれる始末。

まあ、そんな再会ができることは、実に教師の幸福。でも、そんなことがとても期待できないチームもありました。

顧問となってから三つ目のチームでのこと。

学校の働き方改革を踏まえた部活動改革のスケジュール



ある日練習に行くと、皆がおそろいの練習着を着ている。練習着を揃えることなど何も聞いていなかったの、どういことかキャプテンにたどしました。すると、「練習着がないから揃えました。」という答え。

「そんなこと聞いていない。許可した覚えもない。」という、
「先生がやらないから私がやりました！」
—— この答えに私はキレてしまった。

練習をそこでやめさせ、当分練習しない旨をつげて、さっさと職員室に引き上げました。

その後キャプテンは、「責任を取ってキャプテンを辞めます。」と言出す。保護者さんも、「先生が、うちの子が間違っていると言うなら責任を取って辞めさせます。」とおっしゃる。私は自分が間違っているとは思っていない。まさに泥沼。

で、この泥沼をどうやって脱出したのか、今となってはまったく覚えていません。きっと、先輩の先生方が正しく治めてくださったのだと思います。

今の私から見ると、
『一生懸命にチームのために動いてくれるキャプテンを生かすことができないなんて、もう、あほですか。』となります。それから、
『「ありがとう!」とか「やるね、キャプテン。」でいいじゃないの。』と、20代の私にアドバイスしたい。

その後、15年以上バレーの指導からは離れていましたが、50歳を前にした頃、超弱小男子チームの顧問をすることに。そして、そのチームがしでかす大失敗には驚きの連続。

たとえば、

練習試合に行き、アップを始めようとするボールがない。
「ボールは?」と聞くと、
「ボールって僕たちが持って来るんですか?」

たとえば(その2)

審判の笛で公式練習が終わり、ジャージを脱いでエンドラインに整列・・・と、その時、我がチームのキャプテンが走ってきて、
「何人か、下にユニフォームを着ていません。」

彼らに悪気はないけど、本当に何も知らない。

今でこそ、このド素人チームの失敗談を笑って話せますが、当時は結構きつくて1カ月くらいは暗いトンネルの中にいました。

それでも私が切り替えられたのは、初心を思い出したから。

『バレーボールの指導がしくて教師になった。』

・・・ほんとに青い初心。

しかし、青くても「初心」だけが持つ真実の輝きのようなものが、心の灯明になったと思います。

初心に導かれて私は、すべてを1から勉強しなおすことに。他校の監督や強豪高校の監督など、たくさんの方の教えも受けました。

一年後。彼らは、「決まった3人だけでサーブを受ける」という、かなり複雑なローテーションと高度な戦術を使いこなすように。そして何より、「いいチームですね。」とか「見違えました。いい試合でしたね。」などと励まされるようになって、チームを応援してくださる方が増えた。

生徒も教師も「出会い」は選べない。そして偶然出会った人々が、自分の価値観や人間観に収まるわけがない。まして、出会った人が「自分の思い通りに動くはずだ」なんていう期待は、まさに妄想。そんな妄想に惑わされないで、じっくりと人間関係を築いていくことが幸福につながる道だということ、バレー部の生徒たちに教わったと思います。

あつ、それから、行き詰ったら初心に帰るということも。それから、人の「できない」ことにフォーカスするより「できる」ことにフォーカスしたほうが幸せになれること。それから、「初舞台」を見に行かないと怖い目に合うこと。それから、見たこともないような大失敗をしても、たいていは笑えるということ。それから……

